

第53回全国短歌大会報告

駒田晶子

第53回全国短歌大会が二〇二四年十月二十七日(日)、東京・神田の学士会館で開催された。司会
は寺島博子。

応募者数四〇四名、応募歌数一九四七首。十人の選者は全作品に目を通し、七月二十二日(月)オンラインでの選者会議により全

現代歌人協会会報 181

国短歌大会賞二作、朝日新聞社賞一作、学生短歌賞二作を選出した。

栗木京子理事長は式典の挨拶で、生誕百五十年目となる高浜虚子の言葉「選は創作なり」を紹介した。俳句も短歌も、自分の作品以外と真摯に向き合う姿勢が大切であり、今日はどうのような考えによって選が成されたのか出席者みなさんに実感できる時間となればよい、と朗らかに述べた。入賞者表彰式では、当日出席した受賞者に表彰状と副賞が手渡された。
*全国短歌大会賞

鉄棒を握ったあとの五眼目の鉛筆は手におさまりやすい

青衣いと

かはいいとわれのつむじを褒めくるるひざまづき母の足を拭く
たび

羽生田有紀

*朝日新聞社賞

句い立つペトリコールにふり返るわが旧姓に水の文字あり

武井恵子

*学生短歌賞

出なかつた電話がみんな鳴っているよう初蝉の声くぐりゆく

小池ひろみ

大欠伸するとき胸にある花の半濁音をきみに手渡す

渡邊美愛

*選者賞

内山晶太選

かはいいとわれのつむじを褒めくるるひざまづき母の足を拭く
たび

羽生田有紀

大井 学選

「ここで言葉は役割を終えて」と年号を指差す先生

那須良識

大辻隆弘選

天皇を規定してゐる憲法は皇后を規定せざる憲法

庭野治男

加藤英彦選

希死念慮、ついてくるなら潮騒が聞こえなくなるまで歩こうか

小石岡なつ海

駒田晶子選

昼寝する母の寝返り知らせくる見まもりカメラに五月光満つ

羽生田有紀

斉藤光悦選

喫茶店にあなたの挽歌を作りつつ涙あふれて恥づかしいです

栗原蘭子

富田睦子選

おおきめの採寸にして制服のルリタテハイま羽化を始める

塩本 抄

花山多佳子選

職なしの僕は市立図書館で埴輪を作る方法を知る

山田裕樹

平岡直子選

手放して褒められていた幽霊画は燃えて当然だと思えます。

水上美季選

月で死ぬプランは素敵 横たわるわたしにネモフィラ絶えず開いて

大下ぐりこ

選者それぞれの評、そして大辻氏と平岡氏の特別選評を聞きながら「選は創作なり」の言葉を反芻していた。なぜ、この一首が選ばれたのかを考える。自分の一首を詠むだけではなく、他の人の作品を読み、評する力を得ることは、自作への客観的視点を持つための大切な要素なのだと思認識した。

選者によるオンライン会議では、数名の選者によって選出されたそれぞれの第二外国語で聞いたプラネタリアム星の案内

石田泰生

について、幾つかの読みが提示された。「それぞれの第二外国語」を聞いた場所は国内なのか、国外なのか。同じ言語で聞いたのか、別々の言語なのか。この一首から一つの読みに絞りきれなかったため、現代的で新鮮な場面設定なので勿体ないね、と意見が交わされたのが印象深かった。提示されている一首を、どのように読めばよいのか。大辻氏と平岡氏による特別選評の時間も、この一点について時間が割かれていた。よい短歌と出会うためには「読むから」が必要なのだ、と再認識する日だった。

鳥崎

